

# 情報セキュリティ対策テーマにセミナー

## 大阪代協 大阪・損害保険トータルプランナーの会 サイバー攻撃に備える



セミナーのようす

大阪代協ならびに大阪・損害保険トータルプランナーの会は、1月28日午後3時から、大阪市中央区のイオンコンパス大阪駅前Room Bで「大阪・損害保険トータルプランナーの会新春セミナー」を開催した。情報セキュリティ対策をテーマに、参加した会員56名は熱心に耳を傾けた。

### 怪しくないか総合判断

#### 経営者がリーダーシップとって

セミナー開催に先立ち、山中尚会長が挨拶に立ち、「2016年5月に改正保険業法が施行され、代理店に対して体制整備の義務が課されることになった。以来、大阪代協ではそれに係る多くのセミナーを実施してきた。この5月の総会では代理店のBCPに関するセミナーを開催する予定である。本日は、社会問題となっているサイバー攻撃に対してどのような情報セキュリティ対策を



山中会長

立てることが有効かについて学んでいただきたい」と述べた。

セミナーでは、独立行政法人情報処理推進機構セキュリティセンター「情報セキュリティ対策マネジメントコース」を利用者としての対策編『』をテーマに講演を行った。同氏は、ウイルス感染の元は①電子メール②ウェブ③USB④持ち込みパソコンの4つに絞られるとし、感染の原因は人間系のミス、内部犯によるところが多いと指摘。2018年では、個人に対して、クレジットカード情報の不正利用、法人に対しては「標的型攻撃による被害が最も多く、メール等

を使った脅迫・詐欺の手口による金銭要求、サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃」といった新たな脅威も出現していることを紹介した。



鈴木氏

「怪しい点がないかを総合的に判断することが重要だ」と注意を促した。そして、サイバー攻撃によって情報が漏れた場合には、被害者への損害賠償などの支払いや取引停止、顧客流出、ネットの遮断などによる生産効率の低下、従業員の士気の低下を招くなど、とくに中小企業や小規模事業

者は計り知れないダメージを受けると述べた。こうしたサイバー攻撃には、企業自らが情報セキュリティ対策に取り組むことが不可欠で、とくに経営者がリーダーシップをとって実践することが大切で、情報セキュリティ責任者や担当者に対して指示し、確実に実行することが必要と強調した。そして実践にあたっては、まずは①OSやソフトウェアは常に最新の状態にする、②ウイルス対策ソフトを導入する、③パスワードを強化す

る、④共有設定を見直す、⑤脅威や攻撃の手口を知る(情報セキュリティ5か条)といった、できることからスタートし、それから自社診断、情報セキュリティ関連規程の作成、各種のセキュリティサービス等の活用と段階的にステップアップしていけばいいと説明した。セミナー後は懇談の場が設けられ、盛況のうち

に終了となった。



(損保版)

第1～4月曜日発行  
発行所 新日本保険新聞社  
大阪市西区朝本町1丁目5-15  
(郵便番号550-0004)  
電話 (06) 6225-0550 (代表)  
FAX (06) 6225-0551 (専用)  
購読料 1か月2200円  
(消費税、送料込み)

©新日本保険新聞社 2020

シンニチ保険Web  
www.shinnihon-ins.co.jp  
購読者専用バックナンバー  
閲覧パスワード  
Milesahead  
2020年4月6日 AMまで  
※偶数月の第一月曜日正午ごとに変更